

Cブロック勉強会 報告書

平成 30 年 2 月 1 5 日 (木) えーるピア久留米 記録：園田

- 19:30～ 会長挨拶 (満安) <司会：園田>
- 19:40～ これから求められる地域のための薬局像 (杉岡)
- 19:50～ SGD (各班で行います)
- 20:25～ 発表 (2 分×4 班：班長が発表します)
- 20:35～ 薬剤師会、連盟からのお知らせ (医療連携：山口) (在宅介護：木村) (連盟：福元)
- 21:00～ ブロック長挨拶 (石川)

参加者：29 薬局 36 名 (C1：9 薬局 10 名、C2：6 薬局 10 名、C3：8 薬局 8 名、C4：6 薬局 8 名)

テーマ：『これから求められる地域のための薬局像』 ※下記は一例です。SGD の参考にして下さい。

- 24 時間対応 ○在宅対応
- 健康サポート薬局に係る研修を修了し、一定の実務経験(薬局で 5 年)を有する薬剤師の常駐
- 個人情報に配慮した相談窓口 ○開店の時間 (平日 8 時間以上、土日いずれかに 4 時間以上)
- 要指導薬品等を含む OTC、介護用品等の扱い ○健康サポートの取組実績

◆SGD 発表の概要

<C1>

- ・在宅をしたことがなく、どのように在宅を始めればいいのか全くわからない
- ・かかりつけ薬剤師をする余裕がない
- ・要指導薬品を含む OTC の品揃えが少ない
- ・かかりつけ薬剤師を積極的にしていこうと思う
- ・24 時間対応をするには、薬局間同士で電話を回すなどすれば対応できるのではないかと思う
- ・地域の健康フェスタなどに参加して、薬剤師の活動を増やし在宅に繋げていくのもいいのではないかと思う
- ・要指導薬品を含む OTC の品揃えを多くしていく必要がある

<C2>

- ・専門薬剤師、認定薬剤師のスキルを活かす
→患者に分かるようにアピールする大切さ
- ・食事、栄養面についてアドバイスができるような体制を整える
→栄養士との連携、情報交換、メーカーのパンフレットに頼らず班など近隣の薬局で共同制作するなどして負担を減らし、“地域性”を出す
- ・薬剤師個人としての名刺を持つことの重要性
→地域人材、多職種に対して自分が薬剤師であることを示す、かかりつけ担当の患者に対して配布する

< C 3 >

- ・健康サポート薬局の研修の条件が PC に不慣れだと厳しい
- ・サービスを提供するために何が出来るか考える必要がある
 - 足を運んでいただいた患者さんの要望にはなるべく応えられるように日ごろから準備する
(普段置いていない OTC やよそで処方された内容に対しても、すぐに答えられなくてもその場でお調べするなどできる限りのことをする)
- ・グループ薬局だが、かかりつけ薬剤師や健康サポート薬局などへの対応は各店舗の判断に任せられており、その分サポートを受けることもできないため、導入に対するモチベーションの維持が難しい。
- ・一人薬剤師等の人出が足りない環境で、24 時間対応は難しい。できる限り電話対応しているが、深夜帯に応答できなかった時に、翌日苦情を受けたことがある。
 - このような状況でも友好的な関係を構築できるように、普段から個人単位の信頼関係を作る努力が必要。

< C 4 >

[現在、地域のための薬局として取り組んでいること]

- ・ OTC の取り扱い
- ・ 転送電話にて 24 時間対応
- ・ 検査値を見てアドバイス
- ・ イベントの開催

[今後、取り組みたいこと。現状の課題]

- ・ OTC、衛生用品の販売拡大。処方医がどう思うか不安
- ・ 健康相談をしたいが、マンパワー不足。時間がない。
 - 病院が閉まっている時間帯に健康相談をうけてはどうか？
- ・ 24 時間対応は難しいが、電話の問い合わせが多いので開局時間の 1 時間前くらいから電話対応したい
- ・ 1 薬局でイベント (10km ハイキング) を開催するには難しいが、数件で合同でイベント開催したい

◆ 総括

現在の業務の範囲にとらわれない地域貢献や患者対応の成功事例を若手の薬剤師、勤務薬剤師を中心に 1 つでも経験していくことが大切で、各班のディスカッション内容も活発な意見交換がなされたと思います。

しかし、1 グループ 10 名近くなる現在の S G D の方式は、次年度以降考えていかなければならない課題だと思います。